

## 1 理念・目的

### (1) 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。

#### 現状説明

東京理科大学情報科学教育・研究機構（以下情報機構という。）の理念・目的は、情報機構規程に「東京理科大学の共同利用の機関として、全学の学生に対する情報教育の高度高質化を図り、本学の情報科学の教育の発展に貢献することを目的とする。」と定めている。

情報機構には、情報科学教育センター及びバイオインフォマティクス教育センターの 2 つのセンターが設置されており、それぞれの理念・目的については、情報科学教育センターは、情報科学教育センター規程に「センターは、情報教育(情報科学の基礎及び活用技術に関する教育をいう。)に関する基本方針及び情報教育設備の整備計画を策定し、情報教育に係る企画、立案及び実施を行うことを通じて、東京理科大学における情報科学及び情報技術に関する教育の高度化に資するとともに、高度情報化社会の発展に寄与する有為な人材の育成に貢献することを目的とする。」と定めており、バイオインフォマティクス教育センターは、バイオインフォマティクス教育センター規程に「センターは、東京理科大学において生命情報に関する基礎的な教育を全学的に行うことを目的とする。」と定めている。

#### 点検・評価

情報機構は、情報科学の急激な発展に伴い、本学の情報教育の推進と拡充を進めるために、2001 年 10 月に旧情報科学研究・教育機構を改組して、現在の組織が設置されたが、現代社会での情報科学の重要性は益々高まっており、学生の情報技術の活用能力も一層求められている。このような社会状況を鑑み、情報機構の理念・目標は適切に設定されている。

#### 将来に向けた発展方策

情報科学の発展に伴い、社会からの要求や学生に必要な能力も変化するため、情報機構の理念・目標については、これらを反映するよう、継続的に見直しを行う。

#### 根拠資料

- (1)情報科学教育・研究機構規程
- (2)情報科学教育センター規程
- (3)バイオインフォマティクス教育センター規程

### (2) 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知さ

情報科学教育・研究機構

れ、社会に公表されているか。

#### 現状説明

情報機構は、本学の大学案内等の公的な刊行物や大学公式ホームページ等を通じて、組織の理念・目的を大学構成員に周知している。これらは、本学の国際化の推進も踏まえ、日本語及び英語表記により記載され、学外者からも容易に内容が理解できるよう、表現を工夫し、広く社会へ公表されている。

また、情報機構の各センターや情報機構の教育・研究設備についても、それぞれ専用のホームページの設置及び冊子等を発行し、学内外に周知を行っている。

#### 点検・評価

情報機構の理念・目的を学内に周知し、社会へ公表するため、記載内容については毎年見直しを行い、表現を工夫し、わかり易く記載している。

また、大学公式ホームページは、広報を中心に常時見直しが行われており、内容の充実と同時に、利便性を高める改善も行われており、情報へのアクセス性が高まっている。

#### 将来に向けた発展方策

情報機構の理念・目的については、適切に周知・公表されているが、今後も活動内容を含めて、より具体的に公表することにより、組織の理解を深めるよう努力する。公表方法については、現状以外にもより適切な周知手段があれば、適宜導入を検討する。

#### 根拠資料

(1)東京理科大学大学案内

(2)情報機構ホームページ

[http://www.tus.ac.jp/labo/research\\_info.html](http://www.tus.ac.jp/labo/research_info.html)

(3)情報科学教育センターホームページ

<http://www.rs.kagu.tus.ac.jp/ercis/>

(4)バイオインフォマティクス教育センターホームページ

[http://www.tus.ac.jp/labo/research\\_bi.html](http://www.tus.ac.jp/labo/research_bi.html)

(3) 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

#### 現状説明

情報機構の理念・目的についての検証は、情報機構運営協議会に於いて、毎年情報機構及び各センターの責任者により活動報告並びに事業計画の報告を行っており、この報告を受けて、実施内容の検証、理念・目的との整合性及び適切性の検証を行っている。

また、法人の委員会として、情報戦略会議が設置され、法人全体の情報科学教育・研究の推進並びに情報通信技術の活用に関する長期戦略及び展望についての策定が行われてお

り、情報機構と情報戦略会議との連携による検証も行われている。

#### 点検・評価

情報機構の理念・目的の適切性についての検証は、情報機構運営協議会および情報戦略会議に於いて、毎年不定期に実施されている。

#### 将来に向けた発展方策

広く社会や学生の要望が反映できるよう、継続的に検証を実施する。

#### 根拠資料

- (1)情報科学教育・研究機構規程
- (2)情報科学教育センター規程
- (3)バイオインフォマティクス教育センター規程
- (4)各委員会議事録

## 2 教育研究組織

(1) 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

### 現状説明

情報機構には、機構全体の審議機関として運営協議会を置き、情報機構の理念・目標の実現のため、現在は情報科学教育センター及びバイオインフォマティクス教育センターの二つのセンターを設置している。また、研究用の共用設備(ソフトウェアを含む)については、情報基盤整備委員会を置き審議を行っている。それぞれのセンターには、実施の為の部門及び運営のための委員会を置いている。

情報科学教育センターについては、全学的情報教育について審議を行うための運営委員会を設置し、その下に各地区における情報教育の実施について審議する地区情報科学教育委員会を設置し、全学及び各地区の情報教育に対応している。

バイオインフォマティクス教育センターについては、生命情報に関する基礎的な教育の企画及び実施を全学的に行う組織として、関係学部・学科等と密接に連携して運営されている。

各組織の目的及び管理責任を情報機構規程及び各センター規程に定め、理念・目的に沿って適切に運営されるよう、体制を整備している。

また、本学の情報ネットワークに関しては、学校法人東京理科大学ネットワーク利用規程が定められており、本学校法人下の各大学に情報倫理委員会が設置され、情報機構と連携して情報ネットワークに関する問題に対応している。

上記のように、情報機構では複数の組織が連携して目標の実現に努めている。

### 点検・評価

情報機構、及び情報機構に設置された各委員会並びに各センターは、本学の情報科学の教育・研究の推進のために不可欠であり、各規程に沿って各委員会及び各センターは適切に運営されている。これらの組織は、情報機構の理念・目標に照らして適切なものである。

### 将来に向けた発展方策

情報科学の発展に伴う新たな分野への対応や新キャンパスの開設等に際しては、他の組織とも連携し、組織体制についての見直しを行う。

### 根拠資料

- (1)情報科学教育・研究機構規程
- (2)情報科学教育センター規程
- (3)バイオインフォマティクス教育センター規程
- (4)東京理科大学情報科学教育・研究機構及び関連組織の概要(添付資料1)

## (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

### 現状説明

情報機構の組織については、情報機構運営協議会及び各センターの運営委員会に於いて、情報機構及び各センターの活動報告並びに事業計画の報告を行い、各組織の適切性について検証を行っている。

### 点検・評価

情報機構の組織の適切性については、情報機構運営協議会及び各センター運営委員会に於いて、不定期に検証が行われている。

### 将来に向けた発展方策

情報科学の発展に伴う組織体制を含めた見直しについては、他の組織とも連携し、随時検証を行う。

### 根拠資料

- (1) 情報科学教育・研究機構規程
- (2) 情報科学教育センター規程
- (3) バイオインフォマティクス教育センター規程
- (4) 各委員会議事録

## 7 教育研究等環境

### (1) 教育研究等環境の整備に関する方針を明確に定めているか。

#### 現状説明

教育研究等の環境の整備に関する方針は、規定としては定められておらず、審議の為の機関として、情報科学教育センター規程に、情報科学教育センター運営委員会並びに各地区の情報科学教育委員会の設置が定められ、また情報科学教育・研究機構規程に、情報基盤整備委員会の設置がそれぞれ定められており、各学部学科からの要望に基づき環境の整備に係る審議を行っている。

法人全体の情報環境の整備計画については、情報戦略会議に於いて中期計画が定められており、情報機構からも委員が出席し、毎年見直しが行われている。

#### 点検・評価

情報機構では、教育研究等の環境の整備に関しては、各学部学科からの要望に基づき検討を行っており、各委員会での審議と情報戦略会議の中期計画等に基づき整備が行われている。

#### 将来に向けた発展方策

情報通信技術の変化は激しく、各学部学科に於いて整備が必要となる環境も異なっているため、今後も時代の変化に合わせ各学部学科からの要望に応えられるよう環境の改善に努める。

#### 根拠資料

- (1)情報科学教育・研究機構規程
- (2)情報科学教育センター規程

### (2) 十分な校地・校舎および施設・設備を整備しているか。

#### 現状説明

情報教育用の施設・設備については、学生数やカリキュラムに対し適切な規模の情報設備を整備している他、情報通信技術を活用した教育支援システム(LETUS)の構築等により、学習環境の充実を図っている。情報教育用のパソコンを設置したターミナル教室は、学生数約 19,000 人に対し、大学全体で 14 教室 1271 台、自由使用室は 6 室 230 台を配置し、授業の実施に必要な台数を確保している。ターミナル教室は、学生の自学自習に対応するため、授業終了後も時間を延長して概ね 22 時頃まで（校舎毎に開放時間は異なる）利用できる部屋を設けている。このほか、無線 LAN の導入により学生のネットワーク利用を補っており、ほとんどの教室からノートパソコンやスマートフォンでネットワークへのアクセスが可能となっている。また、一部の自習室には、コンピュータ相談員を配置し、学生か

らの相談に対応している。

研究用の施設・設備については、メール等の各種のネットワークサービスを始め、高速並列計算機等の計算資源の整備を行っている。高速並列計算機は、156 ノード 624 コアの分散メモリ型の並列計算機と 4 ノード 32 コアの共有メモリ型の並列計算機が整備されており、バイオや数値計算等のソフトウェアを整備し、2010 年度末時点で本学法人の 17 学部・研究科、41 学科・専攻の教職員及び学生に利用されている。

また、安全管理面では、震災対策の一環でパソコンやサーバの転倒防止対策等も順次実施している。

#### 点検・評価

情報機構の情報科学教育センター、地区情報科学教育委員会、及び情報基盤整備委員会に於いて、利用者や利用状況を踏まえて、十分な施設・設備を整備している。

#### 将来に向けた発展方策

将来に向けた施設・設備の改善については、情報教育設備は、適切な規模で快適に利用できる性能や機能を維持するため、定期的にハードウェアやソフトウェアの見直しを実施する。2011 年度は、教育支援システム(LETUS)を構築し稼動を開始した他、九段校舎や野田校舎の一部のターミナル室の機器更新やソフトウェアの更新を実施した。ネットワーク設備については、2013 年度の葛飾キャンパスの開設に向け、回線の利用状況等を踏まえて改善策を検討中である。研究用計算設備については、メール等の各種ネットワークサービスや高速並列計算機の利用状況を調査し、利用環境の改善や見直しを進めている。

また、2013 年 4 月の葛飾キャンパスの開設に向け、移転する学部・学科が移転後にスムーズに教育研究活動を継続できるよう、早期に葛飾地区情報科学教育委員会を立ち上げ、準備を開始する予定である。

#### 根拠資料

(1)教育環境のコンピュータ利用案内ホームページ

<http://www.ed.kagu.tus.ac.jp/>

<http://www.ed.noda.tus.ac.jp/>

<http://www.ed.osha.tus.ac.jp/>

<http://www.ed.kuki.tus.ac.jp/>

(2)教職員・研究者のためのコンピュータ利用案内ホームページ

<http://www.rs.kagu.tus.ac.jp/>

(3)高速並列計算機ホームページ

<http://www.pe.tus.ac.jp/>

### (3) 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか

#### 現状説明

情報機構では、情報基盤整備委員会に於いて本学の各校舎のキャンパスネットワーク、キャンパス間及び学外接続用ネットワークの利用状況の検討を行い、適切に整備しており、図書館や学内外の学術情報サービスへの情報ネットワークを経由した利用に対して、安定した利用環境を提供している。

キャンパスネットワークでは、教室への無線LANアクセスポイントの整備を進めており、ほとんどの教室からの利用が可能になっている。学外ネットワークへの接続については、商用ネットワークと学術ネットワーク(SINET)の双方に接続しており、学外の学術情報へのアクセスに対する配慮を行っている。

#### 点検・評価

図書館及び学術情報サービスが十分に機能しているかについては、図書館に於いて点検・評価が行われている。

本学の情報ネットワーク全般の整備状況、及び利用状況については、情報機構の情報基盤整備委員会に於いて審議されており、図書館や学術情報サービスを始めとする教育・研究活動での情報ネットワークの利用に問題が生じないよう、適宜利用状況の検証と改善策を提案している。

#### 将来に向けた発展方策

教育研究活動での情報ネットワークの利用は急速に拡大しており、キャンパス間の回線の利用状況等を把握し、適切な改善を実施することが不可欠となっている。

今後も、学内外への情報ネットワークを経由した学術情報サービスの利用が円滑に行われるよう、ネットワーク環境の継続的な改善を提案・実施する。

#### 根拠資料

(1) 図書館ホームページ

<http://www.tus.ac.jp/library/>